



元 RI 会長
ビチャイ・ラクル
(トンブリ)

室津ガバナー様、そして私のお仲間のロータリアンの皆様。

RI会長代理として貴地区大会に参加するために、ここ神戸を訪れてから10年以上がたって「我が家」に帰ってきたことを本当にこの上なく光榮に思います。今再び、この神戸という大きく、かつ日本で最も美しい都市で行われる「指導者育成セミナー」において、2680地区のリーダーの集まる権威ある会合での講演に招かれ、至極の名誉を感じています。

私が10年前にお会いした多くの古い友達に再び会え、しかもロータリーで活躍し、お元気でいることに感激しています。

見知らぬ人としてではなく、「兄弟」として帰ってきたと本当に感じます。ここに10年前に来たときに、私とバンコクロータリークラブの直前会長チェミ・スベンソンさんに対して注いでいただいた皆様の親切と温かいおもてなしを、決して忘れることはありませんでした。

2年前に私に接触し、室津ガバナーに代わって「ロータリーの精神」とその「中核的価値」に関して、私の考えを皆様に話すよう依頼されたのは、私の長年の友達である石井パストガバナーでした。

おそらく皆様方の多くは、これが私の最後の神戸訪問になるかもしれないとは、感じたり信じたりしないかもしれません。

それは、将来ここに戻って来たくないという意味ではなく、私自身91歳であり、まもなく92歳になり、もはや長距離の旅行はできないだろうと思うからです。

もしそうであるなら、私は日本にいる私の友達とお会いし、必要な時には気遣い合い、幸福を分かち合う機会が過去よりも少なくなることを本当に悲しく感じざるを得ません。

しかし、私の健康状態がどうであろうと、いつも私の

心深くでは、命ある限り、ロータリーの精神、その中核的価値、および「超我の奉仕」の理念を広めようとすることを決してあきらめません。

私たちの先輩のあとを継ぎ、100年以上も前の先輩たちが邁進してきた道を追求し続けることが、奉仕理念に対する私の決意であり、私の信条です。

私たちがどんなに費用をかけても守り、残していかなければならないこの財産を共有していることはなんと幸運なことでしょうか。

それゆえ、「人類に奉仕する」ことは私たちの究極の目標であり、それがどんなに難しくてもきっと成し遂げなければなりません。

「人類に奉仕する」ことについて、一つの良い例は、第2680地区の甲子園ロータリークラブのメンバーである「森田道太郎さん」によって築かれた素晴らしい業績です。彼は、私の国の第3340地区によって始められたプログラムに何年も取り組んでこられました。

タイの東北地方全域のいたるところに何百もの図書室を設置し、幼稚園入園前用の10万冊以上の本を整備されました。

その目的は、これらの子どもたちがタイ語を正しく読み書きする方法を学び、幼少期に本を読むことを奨励するための基礎と土台を築くことにありました。

このプログラムによって、幼稚園入園前の児童を正しい方法で教育する専門家によって教育された1,000人以上の教師をこれまでに養成してきています。

それは、困難な作業でしたが、その報いは大変大きいものです。

政府がこのアイデアを取り上げ、このプログラムを全国津々浦々まですべての幼稚園入園前学校に広がっていくことを知って、皆様はお喜びになることでしょう。

森田さんはビジョンを持っています。

彼のクラブのロータリアンたちはビジョンを持っていま

す。そしてジョン・ジャーム会長も私たちと同じビジョンを持っています。

彼の提言は、大部分の人びとが人類についてあまり気に掛けていない、まさにその時に発せられました。

地上および空中でのテロリズム活動は毎日見られています。人類は徐々に毎日消えていっているように見えます。

したがって、人類に奉仕するという事は、真剣に私たちによって取り上げられるべきです。結局、これは、ロータリーの**精神**であり、ロータリー設立当初からの私たちの奉仕の理念でありました。

私の仲間のロータリアンの皆さん！ 私たちすべては、過去幾年か、特にラビ・ラビンドランが会長であった昨年は、ロータリーは大きな多くの変化を経験してきたことによく気づいています。

良いことも悪いことも！

私たちが変化について話すとき、私、自分自身はいかなる変化に対しても**反対ではない**ということを明らかにしておきたいと思えます。

もちろん、私たちが進歩し、生き残るためなら、この近代世界において変化は、なくてはならないものです。

100年以上あとになって、ロータリーはそれ自身の完全な評価をしなればならず、あれやこれや変化に直面しなければならぬだろうことに、わたしは同意します。

ロータリーの変化はさげられません。

だから、私たち、とくにあなたがた地区の指導者たちは、ロータリーで起こっている諸変化に足並みをそろえなければなりません。

ロータリーの中に近代技術を使用することは悪いことではありません。しかし変化が起こるなら、いつも心にとめなければならないことがありました。それは、ロータリーはビジネスをする会社ではなく、**自発的な奉仕組織**であるので、諸変化は、運動の**基本的哲学、精神、中核的価値**をないがしろにははいけません。

さらに、その活動は、他者に対する**思いやりとお役に立つという精神**である最初からの概念を単純に、しかし厳格に適用することに基づくべきであります。

残念ながら、私は今日のロータリーは私たちが過去に知って実践してきたものとは、かなりかけ離れたものであると思えます。

ロータリーの**精神と基本的原則**を完全に壊した諸変化は、会員資格と会員の種類、毎週の例会、出席規定、職業分類原則、ロータリー情報の消滅、職業奉仕の強調

と実践の欠如です。

もしロータリーの一部分でも変化が必要なら、そのような変化は良質な親睦の本質を薄めてはなりません。お金だけを求めない変化、会員資格に多くのばかげたモデルを導入することによってより多くのお金を求めるべきでない変化、等等。ここで言及するにはあまりに大きく多すぎます。

私の仲間のロータリアンの皆様！ 私たちをロータリーに参加するよう勧めてくれた人々は、違った背景を持っていても、彼らが**保持していた抱負**や私たちが**保持している奉仕への精神**は全く同じであります。

あからさまに言えば、最近起こった多くの変化についてあまり気にかけなくてよいと私は言いたいです。

しかし、私はロータリーの原則と理念を絶対的に信じているので、世界でよいことをすることについては、確かに、より気にかけています。

私は必要としている人々への人道的奉仕を提供することに、確かに、より気にかけています。

私はロータリー財団のプログラムを確かに、より気にかけています。

私は米山記念奨学会のプログラムと発展に確かに、より気にかけています。

私はロータリーをその管理を単純にし、ロータリーを会社方式の運営に変えて官僚的でなくしようとする試みに確かに、より気にかけています。

ロータリーはロータリアンたちの「常勤」の仕事ではありませんし、そうすべきでもありません。結局、ロータリアンはそれぞれの生活や家族のために働かなければなりません。

しかし、私たちは今すでに多すぎる会議を持っています。そして、ロータリー会員のコストも着実に上がってきています。それも新世代にとって大きく、私たちが入会してほしく、彼らも入会を希望している新世代は、ロータリー会員のための時間やお金に純粋に余裕がありません。

財政的責任や彼らが消費する時間によって、たとえ私たちが彼らがいかに熱望しても、私たちの運動に彼らが参加することはほとんど不可能であります。

これは、ロータリーの運動やロータリーに関するいかなるアプローチであっても、**ボトムアップ**アプローチでなければならず、**トップダウン**の命令であっては**決してならない**、ということ、いつも私のロータリーの友達に

気づいてもらう理由です。

このことから、すべての段階のロータリーのリーダーシップは、草の根からより多く聞かなければならないということを意味します。それは、ロータリーが今日、よりどころとして責任を負っているのは草の根であります。

このように言ってきたので、私たちが生き残ろうとするなら、ロータリーは「**基本に戻れ**」を実行しなければならぬというのが私の信念です。

すべての人々はそれぞれの「**使命**」をもってると私は思います。

ロータリアンとして、私たちがロータリーに参加することの第一の理由と目的は、**奉仕**をするということです。これは、何よりも重要な使命です。

もし私たちがこの使命を果たすことができるなら、「私たちはなんと素晴らしい世界に生きていることか。私たちが注意深く植え、青空や白い雲の下で芽生える花たちを見ることが出来る。頻繁に会うことがなかった友達に会い、さようならをいう前に、お互いに握手をし、抱擁をする。」ということを誇りをもって言えます。

これがロータリーの**精神**であります。

わたしたちに委ねられた使命を全うするとき、生活は確かに満ち溢れたものとなります。謙遜はあなたの成功の一部分ですから、あなたがすることの中に、あなたの心や精神に**謙遜心**をもって行うときがあります。

あなた方の地区内のクラブが近年すばらしく実践してきたあらゆることに思いをはせるとき、もしあなた方の先輩たちが植えた種や何十年前に設置した土台がすべての人によってうらやまれるほど明らかな成果を伝えているだろうとは、もし今日先輩たちが生きていたとしても、彼らがそう信じることは難しいのではないかと思います。

「人生はやまびこです。あなたはあなたが与えるものを得ます。」という諺は本当に真実です。

これを成し遂げるには、「**会員資格**」は**キーワード**です。なぜなら、私たちが所有している最も偉大な資産は、お金ではなく、**会員資格**だからです。

私たちの創設者が、ある日それがロータリーの最も偉大な資産になるだろうとは思わなかった資産でしたが、今でも資産です。

したがって、より多くのメンバー、特に若くて素質のある人々に入会を勧める最大の努力を払う責任が私たちにあります。

ロータリーの奉仕プロジェクトに触れるとき、ロータ

リーの世界が今なお積極的に活動している最も立派な奉仕の一つが、ロータリーが32年以上、15億ドル以上を費やしてきたポリオプラスプログラムです。

実際、ポリオプラスプログラムについては、この疾病に対する私たちの闘いは長く、厳しい挑戦が続いています。

この疾病を克服するための私たちの進展の中でみる2つの指標は、私たちが数年前から見てきたものより終息に向かっていくには見えません。事実、ポリオウイルスは、2年間根絶させ、ポリオフリーを宣言したあと、数か月後にアフリカの1つの国に戻ってきてしまいました。

しかし、それは、私たちが積極的な進歩をしなかったという意味ではありません。

この恐ろしい疾病が完全に撲滅することに近づいていると世界に宣言できるほど、ポリオは今ほぼ絶滅しています。

まだなお、私たちは予言できない未来に直面しなければならず、発症が一例もどこにもみられないと世界保健機構によって公認される希望をもって、次の3年間かそれ以上働きかけ、最大の努力をしなければなりません。

最も難しい仕事はその完成がすごく近いことで、それはすごく遠くに見えます。それは、今、私たちの決心と仕事は終わってないという私たちの精神次第です。

このプロジェクトはロータリーのイメージに莫大な効果を与えています。それはロータリーのロゴを変えるのに使った140万ドルを**使ったからだけではありません!**

ロータリーの良い公共イメージを描いたポリオプラスプログラムに使ったお金だけではなく、撲滅キャンペーンの間に私たちが失った**人びとの命**にもあります。

これらの損失の一つは、バンコクの北60キロメートルに位置するランジストロータリークラブの会長エレクト ヨング・チャイさんという名前の若いタイのロータリアンです。

ヨング・チャイさんは奥さんと3人の小さな子どもがいました。彼は自動車部品を販売する小さな会社のオーナーでした。

彼の所得は本当に少なく、彼の家族を育てるのにちょうど十分なぐらいでしたが、ロータリークラブのメンバーでした。

彼は、一度に1,000ドルもの寄付をする余裕がなかったため、ポールハリスフェローではありませんでした。

ポリオプラスプログラムにいつも彼は気にかけていましたが、彼の所得を圧迫するので、ポリオプラス財団へ少

しだけ寄付する欲求も放棄せざるを得ませんでした。彼は「**Every Rotarian, Every Year**」のメンバーであり、数年間毎年、ロータリー財団に100ドル寄付していました。

ヨング・チャイさんは、このプログラムの資金を増やすために彼の時間、才能、エネルギーを地区活動に捧げていました。彼のクラブのメンバーだけでなく、一般の人々やロータリアンでない仕事上の友達にも働きかけました。

彼のクラブがポリオプラス撲滅運動に積極的に活動し始めて以来、彼のロータリーの友達が毎年、全国の全国予防接種日に参加するよう、熱心に勧誘しました。

ヨング・チャイさんは「**実践**」的、個人的参加活動を信じていました。

4月のたいへん湿気の多い日でした。ヨング・チャイさんは、彼の妻、娘、ロータリーの友達をともなって全国予防接種日のために、木造船で出かけました。貴重なポリオワクチン点滴を運んでいました。

親たちがポリオの点滴を自分たちの子どもたちに落としてもらおうとしたので、うねった運河にそっていろいろな村で一日を過ごしていました。

ヨング・チャイさんにとって大変体力的に厳しかった日のことでした。彼のからだは汗でずぶぬれになっていました。

太陽は地平線の彼方に沈みはじめ、帰宅時間でした。突然、運河の水門が次の日に土地を耕す農業する人々のために開かれました。

ヨング・チャイさんは彼や彼の家族に危害を加えるほど流れが強くなるとは、認識していませんでした。

彼は、流れに対して権を漕ぎ続けました。

結果、彼の木造船はひっくり返りました!

彼は一方の手でポリオワクチンの箱をつかみ、もう一方の手で彼の7歳の娘をつかみました。彼は岸まで泳ぎ、彼の妻が流れにのまれて流されようとしていたので彼の妻を助けるためにすぐに引き返しました。

そのとき、彼はあたりを見回し、最後に残った勇気と他者に対する思いやりの**精神**で、彼の友達がどうしているか見ようと、今なお強い急流に対して戦いました。

その時までには彼の友達はもがいて、運河の土手に泳ぎ着こうとしていました。彼の友達は泳ぎ着き、無事でした。しかし、残念なことに、ヨング・チャイさんは、彼自身の体重を持ち上げられないほどひどく消耗しきっていました。彼はあきらめませんでした。彼はもがいて生きよう

としました。

彼を助けようとする人は岸に誰もいなくて、ヨング・チャイさんはとうとう水の中に沈みました。彼はおぼれ死にました!

私は次の日、彼のお葬式に参列しました。私は彼の妻、彼の娘、彼の友達を見ました。一つの奉仕の行動によって、生き残ったすべての人々、無事だったポリオワクチンも含めて、一人の人を思いやりました。偉大な勇気をもった人、彼の責務に献身的だった人、とりわけ、「**世界でよいことをしよう**」という**偉大な精神**を持った人を思いやりました。

ヨング・チャイさんは、ロータリーが「**人類に奉仕する**」ために何が出来るかをわかるすべての人々に卓越した模範を示しました。

しかし、悲しいことに彼はとりわけ高価な代償、彼自身の命をもってもたらしました。

ヨング・チャイさんは、彼の家族にほとんど何も残しませんでした。ロータリーの奉仕は資金寄付に限定しないという**遺産**を作りました。実際、ロータリーは確かに「**財布の奉仕**」だけでなく、奉仕の**精神**を通した活動もあるのです。

ヨング・チャイさんは私たちに教訓を与えました。すごくよい教訓です。「成功だけの人とならないようにしましょう、むしろ「**価値ある人**」になるよう心がけよう」。

成功はあなたの人生で成し遂げたものについてでは決してありません。成功はあなたが他者に行動を**鼓舞**することです。

ヨング・チャイさんは私たちに影響を与えたばかりでなく、彼は**価値ある人**になる本当の意味を私たちに示しました。

私たちすべてが「**基本に戻れ**」が必要であり、効果的に人類に奉仕するためにロータリーの奉仕の基礎的な原則に従うことが必要であることを再びわからしめる何と良い例ではないでしょうか!

ロータリーの基本にない多くの新しい会員モデルへの短絡化ではなく、私たちがもっと**適格で価値ある**メンバー、奉仕の志のある男女を持つことが**必要**であるということを知らしめる何と良い例ではないでしょうか!

私の仲間であるロータリアンの皆さん!もし私たちが**基本**を無視し続けるなら、ロータリーの未来がどうなるか、本当に予言できません。

ラビ・ラビンドランがロータリー会員の不変原則と中

核的価値を壊してしまったので、今はロータリーは生き残るか、生き残らないかの分岐点に到達していると私は思います。

私の批評は彼に対する告発ではありません。そして私は彼に対して個人的恨みもありません。しかし、彼の統括のもと、エバンストンで実際何が起きているかを、私は伝えているのです。

不運にも、誰も、理事会メンバーでさえ、恐れず彼に異を唱えようとしませんでした。

ひとつの世代から次の世代へ私たちが残してきた財産、それは奉仕のロータリーの理念の基礎である財産ですが、その**財産を守り、保護**していくことが、この指導者セミナーで率直に遠慮なく話す私の唯一の理由です。

効果的に「**人類に奉仕する**」ために私たちが道を開くロータリーの中核的価値を保護していかなければならないということをジョン・ジャーム会長は私と共有していると思います。

人類に奉仕することは、わたしたちのすべてがここ数年ずっと行ってきた共通のテーマですが、われわれの会長として、ジョン・ジャーム現会長、および**イアン・ライズリー**会長エレクトという**偉大な価値の人**をもつことを私は知っています。

ジョン・ジャーム会長は、私に一人の特別なロータリアンを思い出させます。それは、2002年にナイトに列し、ほんの2年前に106歳で亡くなられたイギリスのマイデンヘッドロータリークラブのニコラス・ウィントン卿です。

ニコラス卿は、「**実践の**」奉仕を信じ、実施した本当の意味のロータリアンで、彼の**精神**はすべての人によって崇敬されていました。

彼が、**669名**、ほとんどがユダヤ人の子どもたちを8台の列車にのせてドイツを通過してブリトンまで連れてきたのは、1939年戦争期間中でした。**250名**の子どもたちを乗せた**9番目**の列車は、戦争が勃発したのでプラハを出発することはありませんでした。

彼らの誰も再び会うことはありませんでした。

彼が子どもたちの救出の世話をすると思立ったのは、わずか29歳のときでした。彼の功績は、ホロコーストの間、**1,200人**のユダヤ人を救ったドイツ人の産業資本家**オスカー・シンドラ**の功績としばしば比較されました。

私たちの会長、ジョン・ジャーム会長の中に、ニコラス・ウィントン卿の驚くべき人道主義的努力の中に、一人の献身的で、信条を持つ個人が他者の生活を変化させ、

向上させる上で生じる相違点を、私は発見したと思います。

今年の6月5日に亡くなった何年もの間ヘビー級ボクシングチャンピオンだったムハメッド・アリのケースを取り上げます。

彼の葬式では、すべての宗派や人種のたくさんの人々が、アリを称えるために違う宗派の礼拝としてルイスビルイスラムセンターにある「リバーロード」モスクを囲んでいました。彼は、暴力を通して彼の生計を立てていましたが、ボクシングリングの外では**平和**を伝道する人でした。

彼は**慈愛**の大使として人々の記憶に留められていました。

私の親愛なる友達！あと数か月でこのロータリー年度は終わろうとしています、**「人類に奉仕する」**ことは続き、イアン・ライズリー会長エレクトの新しい挑戦が現れてきます。

イアン・ライズリー会長エレクトの新しい挑戦がどんなものであろうとも、**「人類に奉仕する」**ことはいまだにひとつの仕事であり、辛抱強く私たちはこの**精神**を維持しなければなりません。

私の経験から、**忍耐は奇跡**を起こすことができ、それはいろいろな形でやって来ます。

それゆえ、あなた方の**精神**を決してあきらめてはいけません、あなた方の**希望**を決して失ってはいけません、あなた方の**決心**を決して失ってはいけません、あなた方の使命、**人類に奉仕すること**に向かって働きかけ続けなければなりません。

どこかで私はそれが私の人生と密接にふれあっていると感じました。

ある8歳の少女が、彼女の弟について両親が話をしているのを聞きました。弟は非常に重い病気で、両親にはお金が残っていないということを彼女はすべて知りました。彼らはお医者さんに費用を払うと今住んでいる家で暮らす余裕がなくなるので、今より小さな家に引越しをしようとしていました。

非常に高額な手術さえすれば、小さな少年の命を救うことができましたが、そのお金を彼らに貸す人は誰もいませんでした。

彼女は父親が「ほんのちょっとした**奇跡**があれば、彼を救うことができるのに」と涙ぐんだ母親に絶望しながらささやいて言ったとき、その少女は彼女の寝室に行き、クローゼットの中の隠し場所から彼女の貯金箱を引っ張

り出してきました。彼女は小銭を床にすべてまき散らし、注意深くそれを数えました。

その尊い貯金箱をしっかりと握りしめ、彼女は裏口から忍び出て、6ブロック離れている町の薬屋への道を進んでいきました。

彼女は貯金箱から1クォーターをとり、それをガラスのカウンターに置きました。

「さて、何がほしいの？」と薬剤師さんは尋ねました。

「それは、私の弟のためのものなの」「彼は本当に重い病気なので、私は彼に『奇跡』を買ってあげたいの」とその少女は答えました。

「もう一度言って？」と薬剤師さんは言いました。

「彼の名前はアンドリューなの。頭の内側に何か悪いものが大きくなって、お父さんがいうには、『奇跡』があれば彼を救うことができるの。だから、『奇跡』はいくらなの？」

「ここでは『奇跡』を売っていないの、お嬢ちゃん。ごめんなさい。」とその小さな少女に悲しげに言いました。

「聞いて、私はそのために支払うお金をもっています。もし足りないのなら、私はもっと多くなるよう努力します。いくらなのか教えてください。」

そのお店に身なりの立派な一人の男の人がいました。「あなたの弟はどんな『奇跡』が必要なの？」とその小さな少女にかがんで尋ねました。

「私は知りません。彼は本当に病気で、お母さんは手術が必要なと言っているけど、お父さんはそれを払うことができないの。だから、私は私の貯金を持ってきました。」と彼女は目を見開いて返答しました。

「君はいくら持っているの？」とその男の人は聞きました。

「1ドルと11セント、でももっと持ってくることもできるの。」とほとんど聞き取れない声で彼女は答えました。

「さて、なんと偶然の一致かな。1ドルと11セント。君の弟の『奇跡』のちょうど金額だよ。」とその男の人は笑いました。

彼は、片方の手でそのお金をつかみ、もう一方の手で彼女の手をとりました。「君が住んでいるところに、私を連れていきなさい。君の弟と両親に会いたい。私が君の必要とする一種の『奇跡』を持っているなら、一緒に見ましょう。」と彼は言いました。

身なりの立派な男の人はロータリアンの「**カールトン・アームストロング博士**」でした。その手術は代価なしで

完璧なものでした。まもなくアンドリューは家に戻ってきてよくなりました。

「手術は本当に奇跡でした。いくらかかったのかしら。」と彼女のお母さんはささやきました。

その小さな少女は微笑みました。彼女は、その「奇跡」がいくらであるか、1ドルと11セントに小さな子どもの**信念**をプラスしたものであることを正確に知っていました。

これは、まさに「奇跡」を起こさせる**忍耐力**です。

これは、まさにいかなる仕事にもある**「信念」**です。「人類に奉仕する」という言質をふさごうとするいかなる問題を克服することを厭わない**信念と精神**です。

私の親愛なる友達！もうさようならをいうところまでやって来ました。ですから、お聞きします。恐れながら私のお話したことについてお分かりになりましたか？

お金、時間、およびエネルギーに関して、より多くの時間を与えてきたものが私たちの生活にありましたか？

そして、あなた方は生活のあらゆる面で、どのように上品に儉約をすることによって、より重要なものに集中するのでしょうか？

その答えが「はい」なら、日本やその他の地域のロータリーは「**変化**」によって消滅する**心配**がありません。

だから、「**基本にもどる**」ことを一緒にしましょう。ロータリーの**精神**とロータリーの**中核的価値**を維持しましょう。そして、今までしてきた方法で物事を進めましょう。

私たちがこの道について行くのならば、私たちみんながとても愛しているこの活動が、来るべき世代へと成長し繁榮し続ける未来を奨励して見つめていきます。

